

「1.63箇月分、12月7日支払い」 経営課題を前面とする社員犠牲はやめろ！ 繰り返される 低額回答に断固抗議！

物価高騰にあえぐ社員と家族の切実な声に経営陣は耳を傾けるべきだ！

11月16日、貨物会社より「2023年度 年末手当」について「1.63ヶ月、12月8日支払い」の回答を受けた。冒頭、本部は、長時間に及び待機を強いられ常識的な時間の確認すら反故にする会社の姿勢に強く抗議し、会社から常識的な時間で判断したいとの、この間の経緯を踏まえ指摘は率直に受け止めた」と謝罪があった。

席上本部は、「BCP対策への不安から顧客の戻りが悪いことも認識するが、昨年度に比較しても改善傾向であることは事実である。厳しい経営環境下においても、設備投資は計画通り行うことを表明しているが、厳しい生活を余儀なくされている社員と家族の生活実態を顧みない、極めて不満が残る回答である」として、

①「コロナ禍の下、厳しい職場環境にありながらも安全輸送に奮闘する社員感情を逆撫でするものではなく、物価高騰が続く厳しい生活実態の改善を望む社員と家族の期待を裏切るものでしかない。

② 厳しい経営状況下でも設備投資は確実に実施するとしているが、社員に対しても当然投資を行うべきである。

③ この間、事業計画数値を上回る利益を上げて社員への還元は行われなかった事実からも、交渉経過を反故にし、社員の労苦に報いてこなかった会社姿勢が改めて問われていると指摘しなければならぬ。

④ 健全経営を阻害する『構造矛盾』を先送りし、その場しのぎに社員に犠牲を転嫁する経営を続ける経営陣の姿勢と態度は許されるものではない。

と厳重に抗議を行った。

最後に本部は、本日の年末手当の低額回答は、社員と家族の生活実態を全く無視した一方的な姿勢であり、極めて不満である」と重ねて抗議し、取り扱いについては「持ち帰り検討」とした。



社員の生活は一向に改善されていない！
経営課題を乗り切るための社員犠牲はもうたくさん！

「低額回答」への抗議行動
※11月24日(金)まで

最高益の年には口にせず、都合が悪くなれば「業績給」！？
国労要求3.0箇月は社員の「生活」に根差した要求だ！
設備投資は否定しないが、社員への投資も必要である！